

Q：ものさしを上手に使えない児童が多いです。ものさしの使用法について、どのように指導すればよいでしょうか。【2年】

A：ものさしの使い方ですまずく児童には、直線が引けない場合と目盛りが読めない場合の2点が考えられます。

（1）ものさしを使って直線が引けない児童への指導

ものさしの端のところを押さえて引くと、線を引いているうちにもものさしが動いてしまいます。長い線を引くときは、ものさしの真ん中を押さえるように指導します。鉛筆を持っているほうの手は、あまり力を入れる必要がないことを意識させてください。



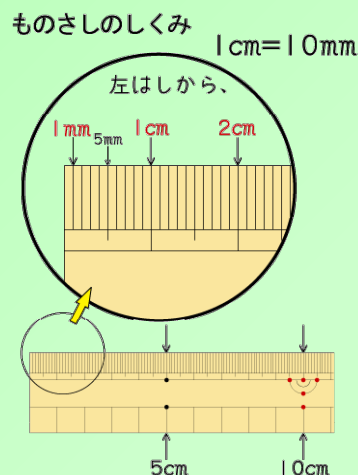
ものさしを使って上手く線を引けるようにするために、点と点を結ぶ練習を何回も行い慣れるようにするのも必要です。

（2）ものさしの目盛りが読めない児童への指導

ものさしは目盛りだけで数値が書いていないため、目盛りを読み取れないことが考えられます。30 cmのものさしでは、目盛りが10 cm、1 cm、1 mmの順に小さくなって分けられているという目盛りの構成について理解させることが大切です。

そこで、拡大図や投影図を利用しながら、読み方としては、最初に一番大きな目盛り、次に2番目に大きな目盛りというように、大きな目盛りから順に小さな目盛りへと読み取るように意識することで、最小目盛りの大きさを分かるように指導します。

測定値には誤差が伴うので、 $\pm 1 \text{ mm}$ は許容範囲と考えること、また1 mm未満は読ませない方がいいでしょう。



ものさしは、児童が計器として初めて接するものなので、「計器の正確な扱い方を身につける」「教具を丁寧に扱う習慣を身につける」という意味で、正しい使い方を繰り返し指導しておく必要があります。

